コノキの可能性が非常に強い。奥村にあった関係のありそうなアカタコノキの雄株は2本あった。安井氏の話ではその1本は亜熱帯農業センターに移されて，現在雌株の結実に使われているという。もう1本は昨年大村の公園に移され，一時弱っていたがどうやら活着したようである。フサナリタコノキの本体は雌株なので，雄株の結論は急ぐことはないが，フサナリタコノキの記述から雄株は除いた方がよいと思う。

日本でこの属を調べるのは非常に困難である。したがって充分な結論をだすのにはかなり時間がかかるので，不充分ではあるが中間報告をまとめておく。現地調査，標本の採集，文献などで御世話になった安井隆弥，豊田武司，毛藤圀彦の諸氏に厚く御礼申し上げます。

Pandanus centrifugalis St. John in Pacific Science **22**: 111, figs. 251-253 (1968).

Pandanus furusei Hatusima in Hokuriku Journ. Geobot. **25**: 2, figs. 1-3 (1977), pro parte, excl. male specimens, syn. nov.

Hab. Isls. Ogasawara, Is. Chichizima, Ōgiura (H. Murata, 1977, s. n.; T. Yasui et T. Yamazaki, Jan. 20, 1985, no. 4986; T. Yasui, March 14, 1985, no. 4900, 4902).

All the above specimens are femal and were collected from the type tree of *Pandanus furusei* which seems to have been cultivated. The male specimens used for the description of *Pandanus furusei* seem to be the same with *Pandanus utilis* Bory having been cultivated in Is. Chichizima, Isls. Bonin.

(東京大学 理学部付属植物園)

□野外植物研究会：**野草1-15巻（昭和10～42年）＋別巻**（復刻版）4500pp. 1985. 出版科学研究所，東京. ￥54,000. 檜山庫三氏らの創立になる野外植物研究会は，東京を中心とする小規模なアマチュア団体であるが，有能な指導者と熱心な幹事の運営で50余年にわたる活動を続けてきた。その会報の「野草」，「花の木」は単なる野外観察記録としてばかりでなく，分類学上の資料として参考にする研究者が少なくない。しかし何分部数が少なくてバックナンバーの入手は難しく，また謄写印刷のため印字が不鮮明な号もあり，とくに第二次大戦前後のものは紙質がわるくて判読に苦しむものが多かった。このたび復刻されたものをみると，あんなにきたない紙面からどうやって製版したのか，みちがえるようなできばえである。別巻には総目次と索引があるが，植物名索引はまだ増補の必要がありそうだ。フロラの変遷をたどるには過去の資料が必要であり，「野草」のような有力な資料が十分に利用されるようになったことは，うれしいことである。

(金井弘夫)